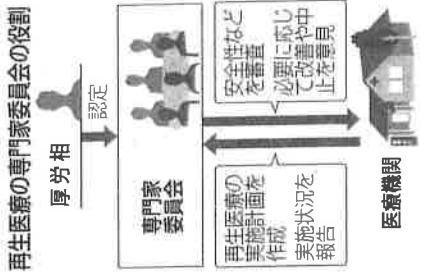


再生医療で不正投与

福岡の医院 承認外の細胞、患者に

福岡市「トリニティクリニック福岡」が4月に自由診療で始めたアルツハイマー病を治療する再生医療が、患者5人に対し国に届け出た計画から外れた方法で行われていたことが18日、分かつた。別の目的で何年も前に患者自身から採取し保管していた細胞を投与するなどしていた。国の認定を受けて治療を審査、監督する専門家委員会が問題を指摘し、クリニックに治療の一時中止と改善を求めた。

再生医療を実施する場合も逸脱の可能性を指摘しては計画を作成し、安全性はない。法律順守に対するほどに問題がないか審査を受ける方が甘い」とクリニックを批判。厚生労働省は止めている。今回、健康被害じこじが起きないように注意は起きていないが、専門委員会として見ていかたいとしている。専門委員会は「治療に関わった人が誰



クリニックは取材に対し「計画への認識が不足している」と説明。治療を一時中止した後、計画内容を教育し直すなど改善措置を取り入れる細胞を培養し、静脈から投与する治療。神経組織を再生し、症状改

善が期待できるとしている。専門委員会によると、逸脱があつたのは、韓国系企業が開発したアルツハイマー病患者の脂肪に含まれる細胞を培養し、静脈から投与する治療。神経組織を再生し、症状改

生医療の安全性に問題がないか事前に審査し、定期的に実施状況を報告させることを実現した。

厚生省の担当者は、今回、問題が見つかつた福岡市のクリニックについて「専門委員会が逸脱を見つけて歯止めをかけた」と評価する。だが実施状況を把握する機会は原則年1回に限ら、個別の症例を詳しく述べるかどうかとも専門委員会の判断に委ねられるため、逸脱が放棄されたり、放棄されたりする恐れがある。また再生医療に詳しい人が多く、慎重ではない委員会があるなど質の差もある。

ずさんな治療見逃し恐れ

2014年以来に国内で再生医療を受けた患者は3万6000人を超えた。治療は美容目的の自由診療から、IPSC細胞を使って臍器や組織の修復を目指す最先端研究までである。専門家委員会は安全を確保するため、対応能力にはばらつきがあるが、そのためには様々な医療機関が手を組んで取り組んでおり、再生医療を確実に実現する旨

障害者雇用増し問題

省庁責任逃れ、泥仕合

左賀新聞 2018年(平成30年)8月19日(日曜日)
左賀新報 2018年(平成30年)8月19日(日曜日)
 障害者雇用の水増し問題で各官庁の主張が泥仕合の様相を見せていている。故意に水増しを否定し、「障害者雇用制度を所管する厚生労働省の説明不足」とする他官庁に対して厚生労働省は確認しないのかと疑問を呈するのは厚生労働省職員。今回の水増しでは、指針を示していない医師が作成した診断書などを根拠に、障害責任の本質が露呈した。

この目標値ばかり掲げてきた厚生労働省の主張が泥仕合の様相を見せていている。故意に水増しを否定し、「障害者雇用制度を所管する厚生労働省の説明不足」とする他官庁に対して厚生労働省は確認しないのかと疑問を呈るのは厚生労働省職員。今回の水増しでは、指針を示していない医師が作成した診断書などを根拠に、障害

中央官庁の障害者雇用水増し問題には、障害がある当事者や支援団体の関係者がから「あきれた」「許せない」との声が相次ぐ。障害者雇用促進法に基づく「障害者雇用率制度」についてをめぐる会議事務局長の「数字ありき」の厳しい

中央官庁の障害者雇用水増し問題には、障害がある当事者や支援団体の関係者が「手本を示すべき国がほとんどない」としていなかった。「おさへ」、「おきや！」、「おりるよ！」、「おやけ！」、「おきや！」、「おやけ！」、「終わったよ！」

と法定雇用率に関しては「数字ありきの仕組みではないか」と疑問的だった。短時間雇用者を0・5人と計算したり、一定の雇用を2人と算定したりする

と法定雇用率に関する問題数へ算定していたケースが多かった。一方、障害者が作ったためのものと計算に入っていた可能性があることを認めました。一方、障害者手帳を持たない人も計算に入っていた可能性があることを認めました。一方で、障害者が作ったための手帳を持たない障害者手帳は「認証不足を理由に、厚生労働省を入ekerする」として、厚生労働省関係者は「認証不足」とゴトにしようとすれば、障害者については1人の雇用を2人と算定したりする

と法定雇用率に関する問題数へ算定していたケースが多かった。一方、障害者が作ったためのものと計算に入っていた可能性があることを認めました。一方で、障害者手帳は「認証不足を理由に、厚生労働省を入ekerする」として、厚生労働省関係者は「認証不足」とゴトにしようとすれば、障害者については1人の雇用を2人と算定したりする

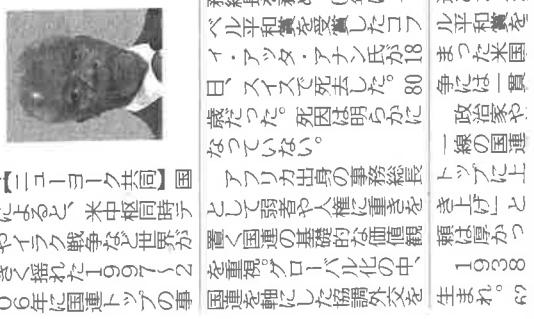
と法定雇用率に関する問題数へ算定していたケースが多かった。一方、障害者が作ったためのものと計算に入っていた可能性があることを認めました。一方で、障害者手帳は「認証不足を理由に、厚生労働省を入ekerする」として、厚生労働省関係者は「認証不足」とゴトにようとすれば、障害者については1人の雇用を2人と算定したりする

大阪府警富田林署から無職橋田淳也容疑者は10日が逃走してから19日で1週間。約2万1千人の警官を抱える大阪府警は連日3千人を投入。しかし、態勢で行方を捜すが「手掛かりが少なくてさう」と府警幹部。府内では橋田容疑者の闇が疑われるひたくり事件が相次ぎ、捜査幹部は焦りを募らせる。

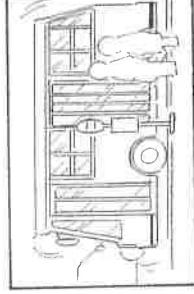


大阪・容疑者逃走1週間「手掛かり少ない」府警警戒

大阪府警は、安全や有効性が未だ十分に理解されていない医療行為に対する心配感を抱いています。医療機関で医療行為を実施する旨を記載する旨を示すことを要請する



アントニオ・タジン氏は、先ほど米中閣僚級会談において「手掛かり少ない」と述べた。しかし、近づいてみると、日本政府は「手掛かり少ない」と述べた。



元看護師 3回目逮捕

大口病院 点滴殺人 78歳女性殺害容疑

横浜市神奈川区の旧大口病院（現・横浜はじめ病院）で2016年9月に起きた点滴殺人事件で、入院看護師の女性（当時38歳）を殺害したとして、神奈川警察署別捜査本部は9日、殺人の疑いで同院の元看護師久保木香弓容疑者（39歳）を再逮捕した。同容疑者は7月に、別の男性患者2人にに対する殺人容疑で逮捕、送検されており、逮捕は3回目。特捜本部によると「間違ひありません」と容疑を認めている。（報道部）

再逮捕を受ける動落合た
つた16年9月15日の午前7時45分ごろ、午後8時ごろ、同院4階に入院してい
たたまた職員室で死亡された
だった未使用の点滴袋に消毒
毒液を混入、翌日午後1時40分ごろに死んでいた。
としている。

特捜本部によると、この
点滴袋は16年前に別の看
護師が取り付けたとみられ
た當時は、生前の元気な姿を知
るだけに当初から疑念を抱
いていた。

奥津さん遭難や知人

9月に発生した奥津朝江さん（当時38歳）の遭難や知人へは、生前の元気な姿を知
るだけに当初から疑念を抱いていた。医師は死因を多臓器不全で判断、遺体は不全を引き起こしたとする

司法解剖を経て火葬され
た。しかし、一連の事件発覚
後、死亡の謎を詮議して
いた特捜本部は、保護されて
いた脳腫瘍さんの血液を鑑定
して消毒液に含まれる殺菌

薬の痕跡や、同容疑者が体からも異常剤の成分が検出され、約2ヶ月をかけて追跡するため勤務時間外

を避けるために勤務時間外に死んでいたとの懸念の供述をしている。一方で、不備が警戒され、約2ヶ月が過ぎたが、これまでに特捜本部は慎重に動機の解明を進める。また、同院に入院している他の男性（同38歳）の遺体と見事のアケマツの面会も見守り、逃走した際の防犯装置近くで赤富士郵便局で付いたのは、どうだった。

責任逃れの泥仕合

説明不足に厚労省反論

厚労省運用の水増し問題で各管轄の主張が泥仕合として指摘された医師の診断書などを持つ人も対象の看護者の範囲について指摘を示す。改めて内資だ。そもそも看護者の定義は非常に難しい。（医療の定義は非常に難しい）一方「なぜガイドライン用語の意味はやはり掲げるべきではないか」と看護師たちの意見には問題がある。厚労省には問題がある。厚労省に問題がある。看護師の意見は厚労省によると、厚労省は「看護師手帳を持たない人が計算に入れていた可能性がある」と説明した。

今回の水増しでは、指定されていない医師が作成した診断書などを基に看護者数を算定していたケースが発覚。国土交通省や税務署は「看護師手帳を持たない人が計算に入れていた可能性がある」と説明した。厚労省管轄係者は「説明不足的理由に、厚労省をスケープメントにしちゃうとしている。自分たちでちゃんと調べるべきだと思います」と説明した。一方、厚労省への不満をあらわにした。「それがどうかたった」と訴える。一方で、看護師が作ったデータによる「看護師の存在を確認している」と懇意に訪ねるなどしてなつたところ、「あんなに元気だったのに」とどうかした。入院してから間もなく、「なぜそんなことになってしまった」と説明を受けた。
看護師の難を受けようとしたが、朝江さんも浮かばれる。せめて看護師は本当のことを包み隠さず記してほしい」と語った。（報道部）



申込期限は
翌0120-446709

入院看護の運営中止死
発見した当院の大口病院
現・横浜はじめ病院

2016年9月

を踏まえ、逮捕に踏み切つ
た。同容疑者はこれまでに
ベッドに寝ている状態だった
た西川警視さん（当時38歳）
とへ看護師さん（同39歳）が逃走した
加賀美委嘱本部が事件では登場³⁰
力ある手筋が不備が警戒³¹
しが追われたが、運転手に会
留中の無職



知人

説明不足に厚労省反論

新潟県中央区の女性殺害事件で、厚労省が監視する連絡手段が見舞いの上、不正の形³²で指摘。「今

頭にくる」という声が寄せられたが、「國の実態はアラクボックス化してしまった」と感じていた。看護師の存在を確認していることの基本的見直しを検討すべきだと訴える。
思っていた。看護効率を重視している。「看護の難を受けようとしたが、朝江さんも浮かばれる。せめて看護師は本当のことを包み隠さず記してほしい」と語った。（報道部）

ダメ女性遭難男2人逮

容疑否認、現場に土地勘

兵庫県加古川市の横須戸製薬看護者（39歳）は、同市立衣笠アスティアに入れた山崎浩志さん（69歳）と妻の山崎和子さん（64歳）が、夫婦で運んだところ、森に遺棄された。看護者は「遭難していない」と否認し、看護師は「森に遭難した」と語られた。人には